

令和4年度 学校評価書（共通） 前期

校名 宇和島市立岩松小学校

1 自己評価書

教育目標						ふるさとを愛し、共に学び、未来を拓く 岩松の子どもを育てる							
基本方針		学校創立150周年という節目の年を迎え、これまで築かれてきた岩松小教育の歴史と伝統を継承・発展させるとともに、持続可能な未来に向けて、学校運営協議会、PTAとの連携を図り、地域とともにある、特色ある学校づくりを推進する。子どもを教育活動の中心に据え、「全ては岩松っ子の愛顔のために」を合言葉に、家庭・地域に愛され、信頼される、「子ども・教職員・保護者・地域」の4つの輝く愛顔があふれる学校づくりを目指す。											
本年度重点目標		1 確かな学力を育てる教育の推進 2 安全・安心で充実した教育環境の整備 3 豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進 4 特別支援教育の充実											
評価項目	評価小項目		評価の観点			評価資料			評価	評価			
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。			・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施			A B	A			
	②	授業改善	主体的な学びの実現に向けて授業改善に努めた。（一斉教授型の授業スタイルからの脱却）			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート			B A A	A			
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。			・教師アンケート ・児童生徒アンケート			B A	A			
			一人1台端末（iPad）及びEILS（えひめICT学習支援システム）を積極的に活用し、主体的に学びや個に応じた学びの推進に努めた。			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート			B A A	A			
			授業と連動させた家庭学習の充実に努めた。（予習・復習・振り返り等）			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート			B A A	A			
	③	家庭学習の充実	読書に対する関心意欲を高め、読書習慣の定着に努めた。			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート			B B A	B			
	④	読書活動の充実	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート			B B A	B			
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	(成果と課題) ○タブレットを活用した対話を積極的に取り入れ、主体的な学びにつながるようした。 ○タブレット端末の使用については、毎日使用することで、児童が上手に扱うことができるようになった。 ▲朝読書や、すき間時間での読書を奨励し、読書活動の時間をしっかりとった。家庭での読書習慣が身に付いていない。 ▲ねらいを板書きし、意識させたが、振り返りが不十分だった。 (改善策等) ○週末や、シャキット週間に図書の本を積極的に持ち帰らせ、家庭での読書を奨励する。 ○ねらいと振り返りを習慣化させる。										
	評価項目	評価小項目		評価の観点			評価資料			評価	評価		
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート			B A A	A		
		②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間づくりに努め、心の通う対人交流が深まってきた。			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート			A A A	A		
				不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート			A B A	A		
				いじめの未然防止、早期発見、解決に向けて組織的に取り組むとともに、地域・保護者に対して、「学校いじめ防止基本方針」の周知に努めた。			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート			B B A	B		
				基本的生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で取り組んだ。			・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート			A A A	A		
		③	基本的生活習慣の徹底	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った（自分にはいいところがある）。 自己有用感（人の役に立っている）や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。			・児童生徒アンケート ・児童生徒の姿 ・児童生徒アンケート ・児童生徒の姿			B A	B		
		④	自己肯定感 等	(成果と課題) ○不登校対応として、学校全体で心配のある児童に関わり、組織的に保護者も交えて対応をしている。 ▲自己有用感や達成感の変化を十分に把握できていない。 (改善策等) ○キャリアパスポート等を積極的に活用して、めあてをもって活動に参加できるようにし、自己有用感や達成感を把握していく。 ○いじめ防止基本方針の改訂									

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	仕事のやりがいを重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、教職員の意識改革に努めた。	・教師アンケート	B	B
				・「出勤・退庁調査」の分析と活用	B	
	②	働きやすい環境づくり	業務改善に向けて自校の課題を洗い出し、慣例にとらわれることなく積極的に改善に努めた。	・教師アンケート	B	B
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
	③	他の教職員のサポート体制の充実	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
	(成果と課題) ▲超過勤務・休日出勤ありき・当たり前の仕事になっている。よくPDCA等持ちだされるが、何かするなら下調べ・準備や計画、事後の時間が必要。それも含めて勤務時間内で行う意識と案が必要。超過勤務者が非常に多く、継続しているが改善が見られない。 (改善策等) ○勤務時間内でできることを基準に仕事を考える。あれもこれもはやらず、削れるものは削る。時間対効果の薄いものは削り、時間が掛かるが外せないことは、他で削る。水曜のあり方(6時間目は授業を入れない等)、時間割(朝終わりの会の短縮)、校務分掌(削除・縮小、分散による業務の振り分け)、支援員さんの活用(何はOKなのか。)					
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めるとともに、全職員の共通理解の下、学校運営協議会の活性化を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	B	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
(成果と課題) ○CS協力員の方に様々な場面で助けていただきありがたい。 ▲学校運営協議会で地域の方から出していただく意見は、ありがたいが全ての意見を学校の活動に取り入れることは難しい。 (改善策等) ○寄せられた意見を受け止め、学校の実態に応じた対応を校内で熟議して対応していく。 ○参集型で必要な会は仕方ないが、書面やメール、電話でできることはそれで行う。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満